

古文書を読む会学習記録

作成日 平成30年 9月28日

開催日	平成30年 9月27日	時 間	10:00~12:00
場 所	区民活動センターAB会議室	出席人数	14名
講 師	真田雅行氏	作成者	松本和俊
テーマ	第二学習 艱難実録(函館戦争)(中)⑬		
概要	<p>11月15日頃、三公（備中松山 板倉公、唐津 小笠原公、桑名 松平公）とも函館へ行くことになった。途中、板倉公は落馬し、難儀であった。</p> <p>函館では山田屋に入った。山田屋は函館第一の豪家であったが、不漁が続き、程なく逼塞した由。山田屋での扱いは丁重で、献上品もあった。</p> <p>函館は森村に比べて寒気も少し減ったが、積雪もあり、三公の外出は供の者も少なく、落ちぶれた様子到家臣は落涙するばかりであった。</p> <p>時折、泉州（榎本武揚）などの誘いで酒屋や茶屋へ行き、少し憂さ晴らしができた。米、仏、魯などの外人も宿に来て懇意になった。</p> <p>開陽艦は江差戦争のため、同沖へ行ったが、戦後、大風のため沈没。預けていた金子や刀が失われた。</p> <p>12月初旬頃、当面、函館は平穏であるが、来春には官軍の征討があるだろう。その節は当方には外からの援助もなく、兵糧、弾薬なども乏しく勝ち目はない。</p> <p>泉州から三公には何も相談もなく、余計者のような扱いであり哀れである。</p> <p>進退を決めねばならず、ひとまず外国へ行き、しばらく様子を見た方がよいとなったが、何分金がなく当惑する。</p> <p>小笠原公が領地の石炭を担保にして米人から三千両借用することがまとまったように思えたが、その後、米人からはっきりとした返事はなく、不調に終わった。</p> <p>江戸の三田龍之助へ千五百両用意するよう指示することとする。</p> <p>手許金も少なくなり、金策のため市内の有力者に残らずお願いするが、義気のある者はいなくて当惑。対州と函館奉行の永井玄蕃から各五十両、計百両を確保できたのみであった。</p> <p>桑名公が金策のため江戸と桑名へ使者を遣わすというので、江戸の三田への指示書面を託す。七百両は直ちに送り、千五百両は当方より連絡次第送るべしと。</p> <p>このような次第につき、外国へも行けず、江戸からの送金を待っている。</p>		
次回予定	平成30年10月11日 10:00~12:00 於：区民活動センターAB会議室 第一学習 野島浦 鈴木家文書⑩		